



国際化の最前線から



今求められる、地域一体での インバウンドガイド育成支援

(一社)インバウンドガイド協会 理事・事務局長 平塚 雄輝

近年、個人旅行の増加や地域を訪れる旅行者の増加などにみられるように、さまざまな体験を求める訪日外国人旅行者が各地で増加している。これに伴い、多言語表記対応やキャッシュレス化といった基礎的な旅行インフラの整備に加え、地域の観光コンテンツやガイド人材といったソフト面の整備が求められている。中でも地域を訪れる旅行者にとっては言語の障壁が特に大きく、また体験へのニーズも高まっていることから、観光案内を行うガイドの育成が急務となっている。

ガイドへのニーズが高まったことで、2018年1月には改正通訳案内士法が施行され、資格を保有していても外国語での有償ガイド業務に従事できるようになった。これにより、外国語を話せる数百万人が潜在的なガイド人材として期待される。

一方で、ガイドが旅行者を案内するにあたってはさまざまなスキル・知識が求められる。しかし、資格を保有しないガイドも含めた品質基準や学習のための環境は、未だ整備されていない。こうした背景から、地域観光の担い手となるガイド人材を広く育成し、サービス品質を向上させることを目的に、2019年にインバウンドガイド協会が設立された。

地域のガイドを育成するための取り組みの一つが、自治体と共同開催しているガイド養成講座である。講義やフィールドワークを通じガイドに必要なスキル・知識を

体得する。また2020年4月には、『インバウンドガイドの教科書』を出版した。ガイド実務のノウハウや、訪日外国人受け入れに必要な法令・制度、宗教、食事などの知識を体系的に習得できる教材となっている。またガイドを志すだけでなく、旅行業や宿泊業、飲食業に従事する多くの人に手に取ってほしいと考えている。



こうした活動を行っている、ガイドとして活動することに意欲的な人が予想以上に多いことに驚く。例えば講座に参加する人の多くは有償ガイドの経験を持っていない。それでも「地域の魅力を外国人に伝えたい」という真摯な想いを持って、多くの人がガイドという仕事へのチャレンジを志している。これから旅行者の増加を目指す地域も、地域ガイドの力を活用しない手はない。地域の観光の担い手がいて初めて、その地域の魅力を旅行者に伝える態勢を整えることができるからだ。

当協会は旅行者の受け入れ強化を考えている自治体や企業に参画いただき、各地での事業推進を加速する。また今後、独自の検定開催など、更なる育成強化にも力を入れる予定だ。さまざまな機関と連携し、ガイドを中心とした更なる地域の観光振興に貢献していきたい。

プロフィール

平塚 雄輝 (ひらつか ゆうき)

東京大学経済学部卒業。大学時代からバックパッカーとして世界約40か国を訪問しており、旅をライフワークとしている。誰もが旅しやすい環境を創りたいという思いから2017年にotomo株式会社を創業。2019年より(一社)インバウンドガイド協会理事・事務局長。



ガイド養成講座の開催風景